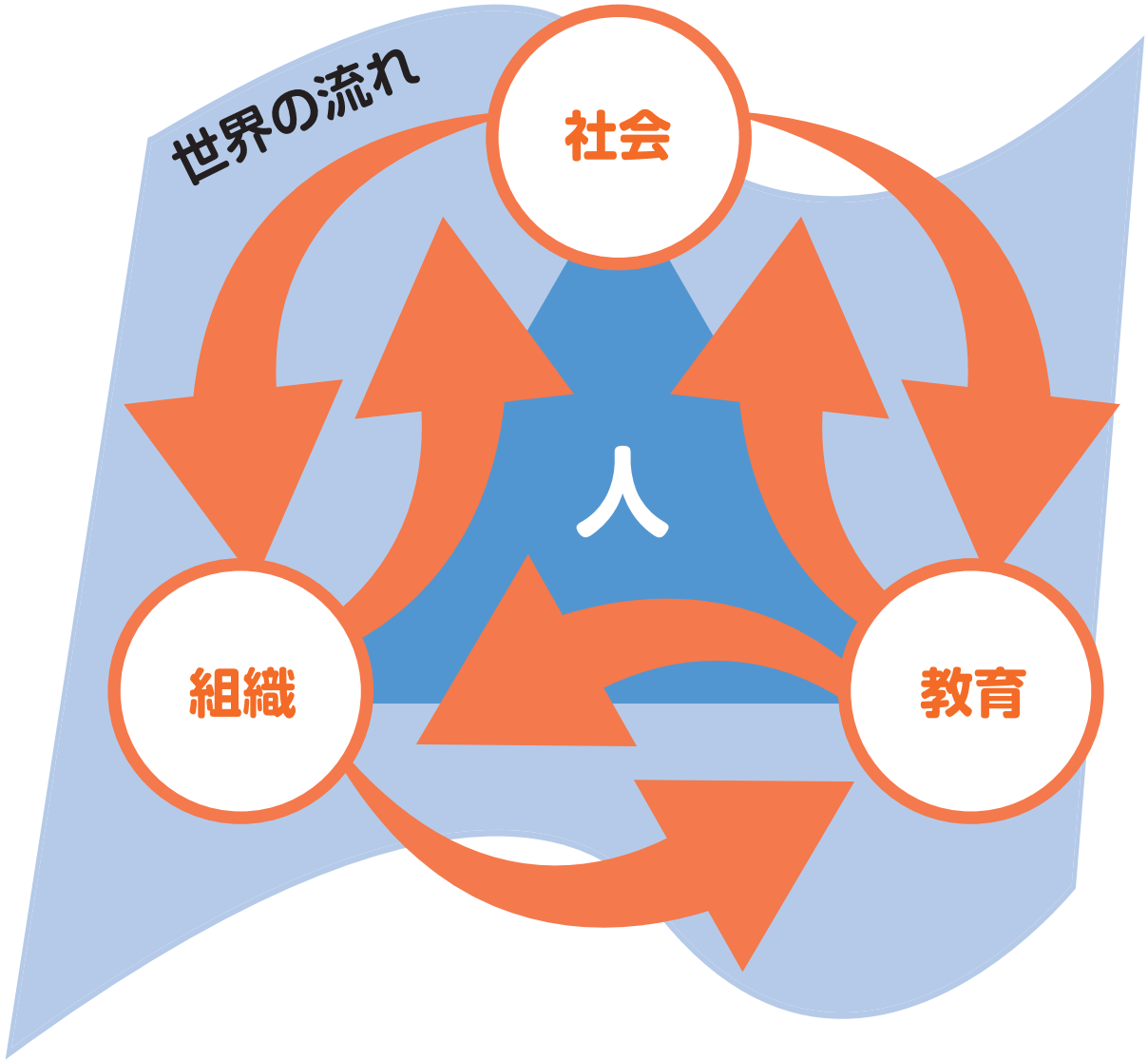
01 未来教育会議とは

未来教育会議のビジョン

01. 未来教育会議とは　-P.04



未来教育会議は、未来の「人」「社会」「組織」「教育」のあり方を、マルチステークホルダーで共に考え、共にアクションを起こすためのプラットフォームづくりを行っている任意団体です。

2014年３月の活動開始以来、下記の４つのビジョンを掲げ、国内外の先進的な取組と課題の視察を行う「スタディツアー」、2030年の社会を洞察する「未来シナリオ」の制作と普及、さまざまなシンポジウムやセミナー、ワークショップ等の開催、執筆活動などを展開しています。

＜４つのビジョン＞

■自立と共生が実現し、すべての人が自分を幸せにすることができる社会をつくる

■主体的に考え、相互に関わりあい、問題解決できる力を持つ人を育てる

■教育に関する柔軟性や自由さが担保されている社会をつくる

■学校、家庭、地域、企業が共創して教育に関わり合う社会をつくる

社会が変われば教育が変わり、教育が変われば社会が変わる。教育の問題はいわゆる「教育界」だけでなく社会全体の問題であり、私たち一人ひとりの問題である。そんな思いで活動を推進しています。

レポート制作メンバー

■未来教育会議実行委員会

未来教育会議実行委員会代表 熊平美香　（一般財団法人クマヒラセキュリティ財団）

ハーバードビジネススクール MBA、熊平製作所、株式会社藤田商店等を経て、GE の「学習する組織」のリーダー養成プログラム開発者と協働し、学習する組織論に基づく組織開発を軸にコンサルティング活動を開始。2013 年より、クマヒラセキュリティ財団においてオランダのシチズンシップ教育「ピースフルスクールプログラム」の日本版を開発、展開。昭和女子大学キャリアカレッジ学院長も勤める。2014 年、未来教育会議を立ち上げ実行委員会代表に就任。

株式会社 教育と探求社　宮地勘司、福島創太

2004 年に日本経済新聞社教育開発室より独立した宮地が設立。全国 60 の中学高校に「クエストエデュケーション」という探求型の教育プログラムを展開。10 代のうちに、自らの働き方、生き方、学び方を考える探求型のプログラムを毎年一万人が学べる場を提供している。経産省「起業家教育推進事業」や「明日の埼玉を作る渋沢栄ースピリッツ事業」採択。かわさき起業家大賞、キャリア教育アワード、グッドデザイン賞等を受賞。

博報堂 bemo! チーム　兎洞武揚、原節子、山田聰、阿部京

企業や団体が顧客や取引先、地域社会などの多様な関係者と“乗り合い型”のチームを形成し、これからの社会的価値や事業モデルを共に構想し創出する手法「マルチステークホルダー乗り合い型価値創造プログラム『bemo!（ベモ）』を開発・提供している、博報堂のコンサルタントチーム。ソーシャルテーマに関する実践経験豊富なメンバーが「競争から共創へ」を掲げ、新しい時代の価値創造を目的に活動している。

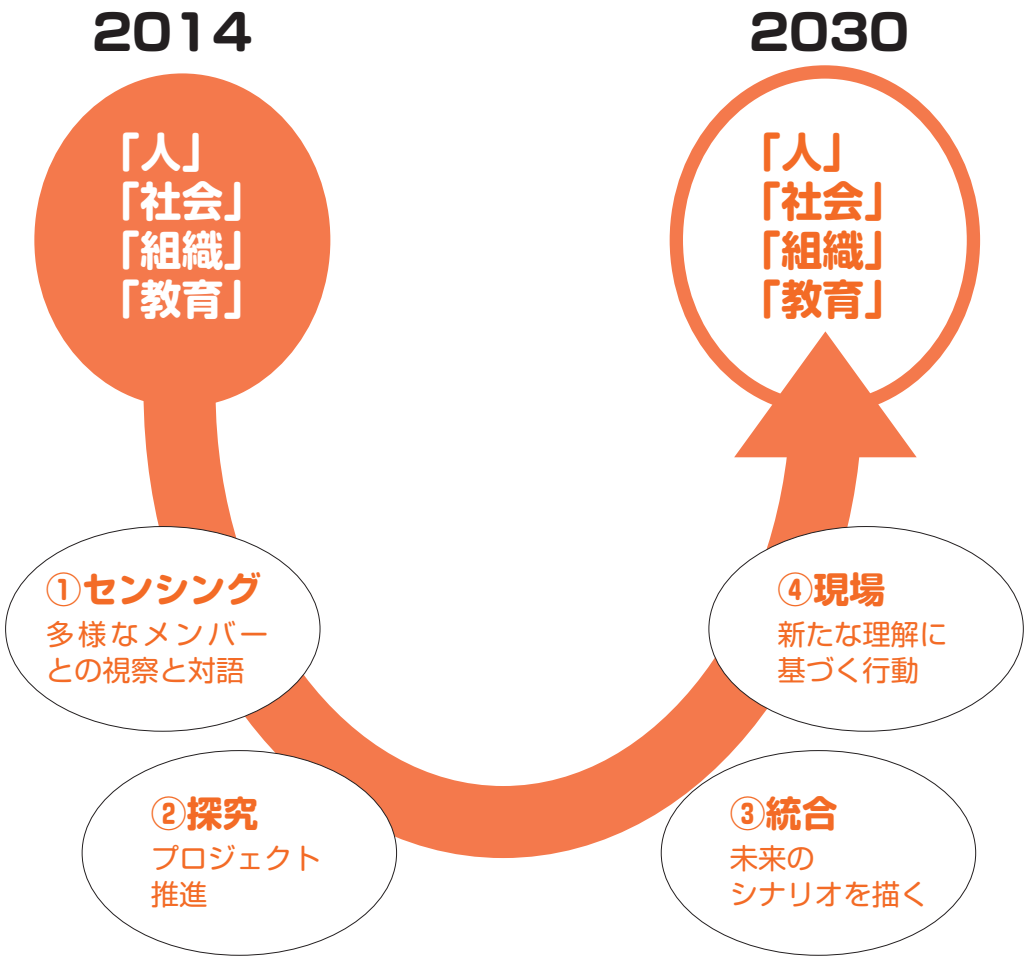
■人ー生の育ちプロジェクト・メンバー

桑原香苗　有限会社フィールドシフト　代表取締役　日本プロセスワークセンター　ファカルティ

土屋恵子　アデコ株式会社取締役ピープルバリュー本部長　モナド代表

並木通男　埼玉県立新座総合技術高等学校　総合ビジネス科　教諭　千葉商科大学商経学部　客員講師

未来教育会議の活動



未来の「人」「社会」「組織」「教育」のあり方を描くにあたって、未来教育会議の活動は大きく４つのフェーズを行き来しながら展開しています。

①センシング
　多様なメンバーとの視察や対話を繰り返し、未来の「人」「社会」「組織」「教育」のあり方を洞察していくフェーズ

②探究
　メンバーとのワークショップを重ね、プロジェクト形式で未来の可能性や未来へのビジョンについて深めるフェーズ

③統合
　探究の成果を形にし、未来のシナリオを描いていくフェーズ

④現場
　新たな理解に基づきそれぞれがアクションを起こしていく実践のフェーズ

現状をネガティブに捉えて未来はこうあるべき、と直線的に発想するのではなく、実際に見聞きした体験とマルチステークホルダーの多様な視点から対話を重ね、その深層にあるシステムを理解し、21 世紀の未来をともに生みだすことを大切にしています。

未来教育会議の活動　①センシング

01

01. 未来教育会議とは　-P.07

お話をうかがった方々（一部）

東京大学大学院教育学研究科教授 秋田喜代美氏
株式会社 LIFULL 代表取締役社長 井上高志氏
品川女子学院 理事長兼中等部校長 漆紫穂子氏
劇作家 平田オリザ氏
Hofstede Insights Japan 株式会社代表取締役 宮森千嘉子氏
千代田区立麹町中学校校長 工藤勇一氏
東京大学大学院経済学研究科教授 柳川範之氏
VISA Worldwide Japan 株式会社代表取締役社長 安渕聖司氏
青山学院大学大学院国際マネジメント研究科教授 高橋文郎氏
大阪市立大空小学校元校長 木村泰子氏
星槎大学大学院教育実践研究科准教授 斎藤俊則氏
株式会社 NHK 出版編集長 松島倫明氏
東京大学大学院教育学研究科准教授 北村友人氏
ジャーナリスト ニールセン北村朋子氏
特定非営利活動法人 Learning for All 代表理事 李炯植氏
横浜市立中川西中学校校長 平川理恵氏
金沢学院大学文学部教授 多田孝志氏

現場調査訪問先（一部）

オランダ	ピースフル・スクール・プログラム実践校
オランダ	スティーブ・ジョブズ・スクール
オランダ	ワーグ・ソサエティ
デンマーク	森の幼稚園
デンマーク	自由高校
デンマーク	カオスパイロット
デンマーク	フォルケホイスコーレ
ドイツ	インダストリー 4.0 コンピテンスセンター

※インタビュー実施時の所属・タイトルを記載

本レポートの基になった 4 つのフェーズの取組みを、簡単にご紹介します。

1 つ目は**「センシング」**のフェーズ。

まずは、未来の人、社会、組織、教育を考える上で重要となる、子どもと保護者、教育関係者、研究者、企業、NPO・NGO、行政、クリエイター等々、多様なメンバー (= マルチステークホルダーチーム）からなるプロジェクトチームを組成するところからスタートしました。

これまで、計 96 名の方にプロジェクトメンバーとしてご参加いただきました。

そして、そのメンバーで国内外の有識者へのインタビューや先駆的な取り組みを行っている現場への訪問調査 =“スタディツアー”を行い、世界にどんな流れが生まれているのか、それぞれの立場で課題と感じること・価値を置いていることはどんなことなのかを“感じて”(センシング) いきます。

4 年間の取り組みを通じて、国内では約 100 カ所・国外で約 40 カ所を訪問しています。左記はそのごく一部です。(巻末 Appendix にその他の訪問先を記載)

未来教育会議の活動　②探究

次は**「探究」**のフェーズ。

センシングを通じて見えてきた未来の兆しをもとに、それぞれの立場を超えて共有できる未来像や未来へのビジョンを「探究」します。

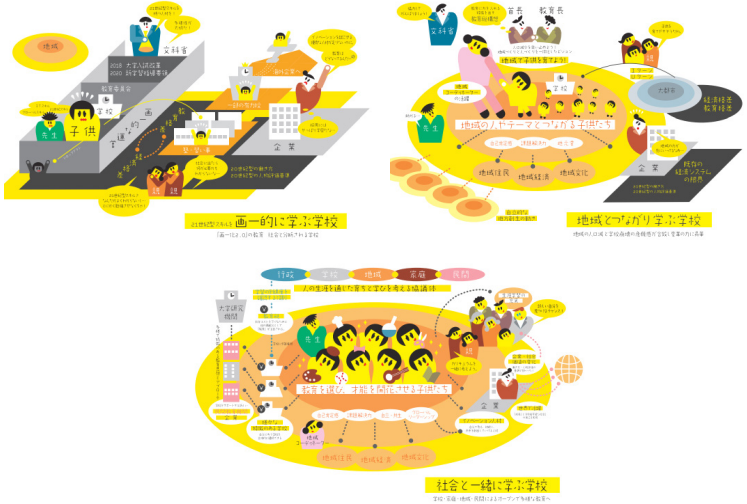
先述した多様なメンバーによる“共創型プロジェクト”として、ワークショップや対話を繰り返し、たとえば「システム思考」や「デザイン思考」などのアプローチも活用しながら、未来にはどんな可能性がありうるのかを探究していきます。

４年間の取り組みを通じて、プロジェクトメンバー以外にも、未来教育会議のワークショップやセミナー、シンポジウム等にのべ 1,000 人以上の方にご参加いただき、さまざまな議論が繰り広げられています。

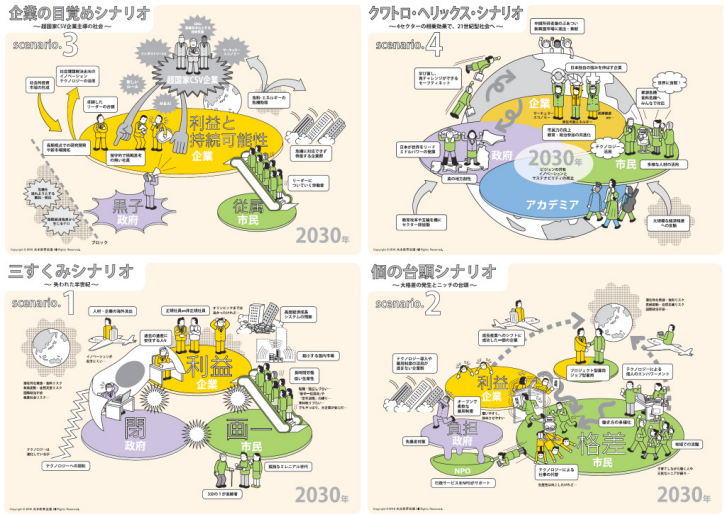
このレポートで提示する洞察や問い、ビジョンの多くは、この探究の過程の成果によるものです。

未来教育会議の活動　③統合

（1）『2030 年の社会・教育の未来シナリオ』３つのシナリオ



（2）『2030 年の社会・企業の未来シナリオ』４つのシナリオ



３つ目のステップとして、探究の成果を**「統合」**していきます。

“トランスフォーマティブ・シナリオ・プランニング”というアプローチを活用し、左記２つの“未来シナリオ”に統合しています。

未来シナリオは、この先、どのような世界が起こりうるかをビジュアルとストーリーとで生き生きと描くことによって、不確実な未来への洞察を深めていくためのコンテンツとなっています。

未来シナリオは、“未来予測”や“未来に関しての答え”ではありません。未来はどうなりうる可能性があり、それに対して自分たちはどのように行動していくかを考えるための“問い”であると言えます。

お時間があれば、本レポートと合わせて、下記のリンク先にアップロードしてある２つの未来シナリオについてもご覧いただき、ぜひ“問い”を味わっていただければと思います。

http://miraikk.jp/cat-03/1472
http://miraikk.jp/cat-03/2882
※未来シナリオの抜粋（ビジュアル・イメージ）を本レポートの Appendix にも掲載しています。

未来教育会議は、この未来シナリオを、シンポジウムやワークショップを通じて紹介し、聞く方にインスピレーションを得ていただく活動も行っています。

未来教育会議の活動　④現場

OS21

Teachers Initiative

くんま小学校プロジェクト

熊小の魅力多彩な角度で

浜松、児童6人の小規模校

PTA、外部組織連携

課題議論、存続の道模索

４つ目のステップは、**「現場」**での実践です。

シナリオ制作プロセスで生まれたアイデアから、 次のようなアクションが実際に立ち上がり、未来教育会議実行委員会メンバーと未来教育会議に参加してくださった方々によって推進されています。

■大人に 21 世紀型スキルを身につけてもらうためのプログラム「OS21」とその運営主体である「一般社団法人 21 世紀学び研究所」。
■子どもたちの主体性と創造性を育む教師を支援する「一般社団法人ティーチャーズ・イニシアティブ」。
■中山間地域で学校と地域がつながる未来志向の学びのモデルを創出する「くんま小学校プロジェクト」。

こうした現場での実践をもち、そこで得た課題や気づきから次に進めていくために、ふたたび「センシング」「探究」「統合」「現場」を繰り返す…。このようにして、４つのステップを行き来し、未来の人・教育・組織・社会のあり方の探求とアクションの創出・実現を進めています。